

長谷川 望牧師

- * 「彼らが食事を済ませたとき、イエスはシモン・ペテロに言われた。『ヨハネの子シモン。あなたは、この人たち以上に、わたしを愛しますか。』ペテロはイエスに言った。『はい。主よ。私があなただを愛することは、あなたがご存じです。』イエスは彼に言われた。『わたしの小羊を飼いなさい。』(ヨハネ21:15) イエスはペテロに3回問いかけられた。「あなたは、わたしを愛しますか」。そのトーンは穏やかで隣みに満ちていたものであったと思われる。「この人たち以上に」は以前ペテロが「たとい全部の者がつまずいても、私はつまずきません。」と言ったことばが背景にある(マルコ14:27~29参照)
- * ペテロの答え。「私があなただを愛することは、あなたがご存じです。」ただ単に「はい、主よ。」だけではなく、「あなたはすでにご存じです」という答えは、イエスは私の心のうちのすべてを知っておられ、どんなに嘘偽りを言ったり、つくろっても、イエスにはすでにバレているからである。だからこそ、ペテロのこの答えは、確信に満ちたものであったと言える。
- * イエスの命令「わたしの羊を飼いなさい。」弱って魂の行き場がない人たちにイエスの十字架と復活を伝えなさいということである。全人類の救いのためにイエスは来られ、十字架にかかれ、復活されたけれども、そのことを伝える人がいなければ神の計画は達成されない。そのためのリーダーとしてペテロはなくてはならぬ存在であった。しかし、そのペテロは3回も「イエスを知らない」と言ってしまった。その心の傷は深く、なかなか癒されるものではなかつただろう。そのままでは、福音伝道の使命を果たしていくことは困難であったと思われる。それで敢えてイエスはペテロに3回答えさせて、ペテロの罪を完全に赦されたのである。ペテロは励まされ、勇気づけられた。
- * 「わたしに従いなさい。」ペテロは、これから、厳しい迫害に会って死ぬということをイエスは預言された。そのペテロは、主の愛された弟子(ヨハネと思われる)のことを気にかけてのためにイエスから、人のことを心配する前に自分の足元をしっかりと見るように諫められた。「あなたは、私に従いなさい。」(ヨハネ21:21~22)
- * 私たちが神を愛するためには、まず私が神様に愛されていることを知ることが大切である。「私たちが神を愛したのではなく、神が私たちを愛し」(Iヨハネ4:10)。そして、神の愛は赦しに現れているので、私たち自身が十字架のゆえに赦しを受けていること信じて確信することが神を愛していることになる。もう一つは神の命令(ことば)を守ることである。「主に愛され、主を愛す」私たちは、この素晴らしい関係を味わうことができることを感謝したい。